

マンガ付き小説

『オリンの日記 第1巻 最後の決断』

G0231

インドネシア

世界のムスリムのくらしー同時代を生きる



この『オリンの日記』は、マンガ付き小説で、現地では小説（ノベル）とマンガ（コミック）を合わせてノミックとよばれている。ムスリムの女子高生オリンが、学校や家庭で出会うさまざまな出来事や悩みを描いている。インドネシアでは、国の5原則の1つとして、唯一神への信仰をもつことがうたわれている。そのため、若者の生活を描く小説やマンガにも、宗教にかかわるテーマがひんばんにあらわれてくる。

【福岡先生からのひとこと】

インドネシアでは、ムスリム女性だからといって、必ずベールをかぶらなければならないわけではありません。しっかりとした信仰と自覚をもってかぶることが大事だと考えられています。そのため、なぜベールをかぶるにいたったのかという理由と覚悟が大切にされます。

『オリンの日記』第1巻は、女子高生オリンがベールをかぶる決断をするお話です。ベールをかぶったテコンドーの先生に出会い、ベールをかぶりたいというオリンの気持ちは高まっていきます。宗教を異にする友人たちとの友情や、やりたいことが制限されてしまうのではないかと心配を抱えています。信念を貫いてベールをかぶります。友人もそうしたオリンのことを理解してくれます。